

企業名： 大林組

レポート名： 「コーポレートレポート 2022」

1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

大林組の「コーポレートレポート 2022」では、2050年に向けての Obayashi Sustainability Vision 2050 や中期経営計画 2022 など、将来に向けてのプランが全面に押し出されていて、「カーボンニュートラル」や「ウェルビーイング」といった目標に向けた取り組みが行われているのが伝わってきた。トップメッセージで触れた後に図を用いて説明し、特に中期経営計画に関しては後半でさらに具体的な取り組みにも触れられていたので理解もしやすく印象に残った。しかし、2040年～2050年の目標に関してはまだ先のことであるのに加えて具体的な達成方法があまり示されておらず、イメージが持ちづらいと感じた。レポートの12ページに掲載されている2050年の大林グループ像の各構想についてももう少し触れられていれば具体的なイメージを持ちやすいとともに、会社の将来のビジョンにより興味をひかれたと思う。

2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

この会社の競争優位性については一つの項目として示されているのではなく様々なところで少しずつ触れられていた。建設DXや環境負荷を軽減する技術力、建設ライフサイクル全体のマネジメントを行えることが強みとしてあげられていた。これ以外にも複数の項目が図などによって説明されていた。しかし、それがどこから生まれるか、どう強化していくかなどはあまり詳しくは説明されていなかった。また、サステナビリティ課題をビジネスの機会と位置付けたことが強調されており、それが競争優位性につながる可能性もあるが、現在というよりは将来の競争優位性を作るための話題が多いと感じた。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

現在の競争優位性に持続性があるかどうかは、競争優位性を生む要因について十分読み取れなかったため理解が難しかった。環境に関する技術に競争優位性があるため、「カーボンニュートラル」の目標には合っていると思った。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

全体的に人的資本についてはあまり触れられていない印象を受けた。人材マネジメントという項目で、人材マネジメントの方針が示されているが、主な内容は社員の成長よりも働きやすい環境についてであった。研修についての説明や後継経営者育成教育、デジタル人材の育成についても掲載されているものの、内容の説明が十分ではないと感じた。働きやすい環

境が成長につながることもあると思うが、コーポレートレポートを読んだだけでは自分がこの会社で人的資本の価値向上を達成できるかは判断できなかった。会社の将来像についてはよく説明されているものの、それと関連する形で人材について触れられている部分があまりないのが残念だった。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

一貫して会社が将来実現したい、「カーボンニュートラル」や「ウェルビーイング」について触れられており、会社が持っている将来についてのビジョンが伝わってきた。トップメッセージで最初に触れた後に図を使って視覚的に説明されていたため理解しやすかった。しかしその反面、将来の姿で重要視されている環境などと直接関係していない部分が読み取りづらくなっていると感じた。

また、順番に読み進めていくと将来像が説明された後に現状について説明されているが、先に現状を説明したほうが将来像を理解しやすいのではないかと思った。